

発表項目 (行事名)	令和元年度(2019年度)第2回タンチョウ越冬分布調査の結果について																						
記者レクチャー のお知らせ	(実施日時)	発表者																					
		発表場所																					
	<p>令和元年度(2019年度)第2回タンチョウ越冬分布調査を次のとおり実施しました。</p> <p>1 調査実施日時等</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>令和元年度 第2回</th> <th>平成30年度 第2回</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>調査日時</td> <td>1月24日(金) 14:45~15:15</td> <td>1月25日(金) 14:45~15:15</td> </tr> <tr> <td>調査区域</td> <td>7振興局26市町村</td> <td>7振興局31市町村</td> </tr> <tr> <td>調査箇所</td> <td>計220箇所</td> <td>計239箇所</td> </tr> <tr> <td>調査協力者</td> <td>関係市町村・給餌人等 計142人</td> <td>関係市町村・給餌人等 計141人</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 環境省委嘱給餌場である鶴見台、鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ及び阿寒国際ツルセンターと北海道委嘱給餌場である高橋給餌場及び丸山給餌場は各給餌場の給餌時間帯に調査を実施しました。</p> <p>2 タンチョウ確認羽数 (単位:羽)</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>令和元年度 第2回</td> <td>合計:1,370 (成鳥:1,222、幼鳥:104、不明:7、飼育個体:37) 野生個体:1,333 (釧路:1,246、十勝:57、根室:25、日高:3、胆振:2)</td> </tr> <tr> <td>平成30年度 第2回</td> <td>合計:1,031 (成鳥:856、幼鳥:124、不明:13、飼育個体:38) 野生個体:993 (釧路:888、十勝:91、根室:10、日高:3、空知:1)</td> </tr> </tbody> </table> <p>3 調査結果に対する有識者(正 富 宏之 専修大学北海道短期大学名誉教授)のコメント概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 記録総数は1,333羽で、前年度の公式記録993羽と比べて340羽多い。給餌場へ多数が集まった時の記録を基にした参考記録1,359羽と比べると26羽少なく、実質的に今年は過去2番目の羽数を記録。 ○ タンチョウが記録されたのは18市町村で、過去最多の市町村数。特に苫小牧市は初めての記録で、道央圏へのタンチョウ進出を示唆する例と言える。 ○ 根室では初めて1月の記録が12月の記録を上回った。大きな要因として調査者が増え、きめ細かな調査が行われたことが挙げられる。 			区 分	令和元年度 第2回	平成30年度 第2回	調査日時	1月24日(金) 14:45~15:15	1月25日(金) 14:45~15:15	調査区域	7振興局26市町村	7振興局31市町村	調査箇所	計220箇所	計239箇所	調査協力者	関係市町村・給餌人等 計142人	関係市町村・給餌人等 計141人	令和元年度 第2回	合計:1,370 (成鳥:1,222、幼鳥:104、不明:7、飼育個体:37) 野生個体:1,333 (釧路:1,246、十勝:57、根室:25、日高:3、胆振:2)	平成30年度 第2回	合計:1,031 (成鳥:856、幼鳥:124、不明:13、飼育個体:38) 野生個体:993 (釧路:888、十勝:91、根室:10、日高:3、空知:1)	
区 分	令和元年度 第2回	平成30年度 第2回																					
調査日時	1月24日(金) 14:45~15:15	1月25日(金) 14:45~15:15																					
調査区域	7振興局26市町村	7振興局31市町村																					
調査箇所	計220箇所	計239箇所																					
調査協力者	関係市町村・給餌人等 計142人	関係市町村・給餌人等 計141人																					
令和元年度 第2回	合計:1,370 (成鳥:1,222、幼鳥:104、不明:7、飼育個体:37) 野生個体:1,333 (釧路:1,246、十勝:57、根室:25、日高:3、胆振:2)																						
平成30年度 第2回	合計:1,031 (成鳥:856、幼鳥:124、不明:13、飼育個体:38) 野生個体:993 (釧路:888、十勝:91、根室:10、日高:3、空知:1)																						
参 考																							
報道(取材) に当たって のお願い	<p>本調査では、関係市町村をはじめ、多くの関係者の方々の御協力をいただいております。</p> <p>また、北海道と包括連携協定を締結している日本航空株式会社(JAL)と平成29年度から協働で調査を実施しておりますので、積極的な報道をお願いします。</p>																						
他のクラブ との関係	<p>同時配付: 下記の(総合)振興局で配付します。</p> <p>同時レク:</p>																						
担 当 (連絡先)	<p>環境生活部環境局生物多様性保全課生物多様性戦略グループ 担当: 坂村 (ダイヤル: 011-204-5987 又は 代表: 011-231-4111 内線24-389)</p> <p>※ 個別の調査内容については、次の(総合)振興局環境生活課自然環境係までお問い合わせ願います。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>電話番号</th> <th>区 分</th> <th>電話番号</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>空知総合振興局</td> <td>0126-20-0043</td> <td>十勝総合振興局</td> <td>0155-26-9028</td> </tr> <tr> <td>胆振総合振興局</td> <td>0143-24-9577</td> <td>釧路総合振興局</td> <td>0154-43-9154</td> </tr> <tr> <td>日高振興局</td> <td>0146-22-9254</td> <td>根室振興局</td> <td>0153-23-6823</td> </tr> <tr> <td>ホクティ総合振興局</td> <td>0152-41-0630</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			区 分	電話番号	区 分	電話番号	空知総合振興局	0126-20-0043	十勝総合振興局	0155-26-9028	胆振総合振興局	0143-24-9577	釧路総合振興局	0154-43-9154	日高振興局	0146-22-9254	根室振興局	0153-23-6823	ホクティ総合振興局	0152-41-0630		
区 分	電話番号	区 分	電話番号																				
空知総合振興局	0126-20-0043	十勝総合振興局	0155-26-9028																				
胆振総合振興局	0143-24-9577	釧路総合振興局	0154-43-9154																				
日高振興局	0146-22-9254	根室振興局	0153-23-6823																				
ホクティ総合振興局	0152-41-0630																						

令和元年度(2019年度)第2回タンチョウ越冬分布調査の結果について

1 調査の趣旨

本調査は、絶滅危惧種のタンチョウの越冬分布、規模の把握等を目的に、給餌人の御協力のもと、環境省委嘱給餌場等の大規模給餌場を中心にタンチョウの飛来数、幼鳥の有無等を把握するとともに、関係機関等の御協力のもと、給餌場、自然採餌場や農家の存在等の分布要因に着目してタンチョウの所在位置情報について収集しました。

2 調査日時

令和2年(2020年)1月24日(金) 午後2時45分～午後3時15分

※ 環境省委嘱給餌場である鶴見台、鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ及び阿寒国際ツルセンターと北海道委嘱給餌場である高橋給餌場及び丸山給餌場は各給餌場の給餌時間帯に調査を実施しました。

3 調査区域及び調査箇所

- (1) 調査区域 7(総合)振興局、26市町村管内のタンチョウ生息地及び飛来地全域
- (2) 調査箇所 合計220箇所

○調査地点所在市町村数の推移

(市町村)

振興局	令和元年度		平成30年度		平成29年度	
	第1回	第2回	第1回	第2回	第1回	第2回
釧路	8	8	8	8	8	8
十勝	11	7	11	11	10	7
根室	4	3	4	3	4	3
オホーツク	4	3	4	3	4	2
宗谷	4	-	2	-	2	-
日高	2	2	2	2	2	2
胆振	4	2	3	3	1	-
空知	3	1	3	1	1	1
留萌	1	-	-	-	-	-
合計	41	26	37	31	32	23

○調査箇所数の推移

(箇所)

振興局	令和元年度		平成30年度		平成29年度	
	第1回	第2回	第1回	第2回	第1回	第2回
釧路	174	143	168	158	143	151
十勝	71	38	91	46	42	38
根室	21	16	22	7	21	6
オホーツク	14	7	13	5	13	2
宗谷	4	-	2	-	3	-
日高	6	7	6	7	6	7
胆振	13	8	11	14	5	-
空知	9	1	9	2	2	2
留萌	1	-	-	-	-	-
合計	313	220	322	239	235	206

4 調査主体及び調査協力機関等

(1) 調査主体

北海道(環境省委託)

(2) 調査協力機関等

市町村、市町村教育委員会、釧路市動物園、タンチョウ給餌人、日本航空株式会社、鳥獣保護管理員等

○調査協力者数

振興局	総計 (人数)	内 訳				
		関係市町村	関係市町村 教育委員会	タンチョウ 給餌人	鳥獣保護管理 員・自然保護監 視員等	その他
釧路	107	26	15	13	10	43
十勝	15	9				6
根室	17	2	2	4	1	8
オホーツク	0					
日高	2					2
胆振	1					1
空知	0					
合計	142	37	17	17	11	60

5 タンチョウ確認羽数（振興局別）

(羽)

振興局	令和元年度第1回				令和元年度第2回			
	成鳥	幼鳥	不明	計	成鳥	幼鳥	不明	計
釧路	864	96	78	1,038	1,144	95	7	1,246
十勝	114	24	0	138	50	7	0	57
根室	21	3	0	24	23	2	0	25
オホーツク	4	0	0	4	0	0	0	0
宗谷	0	0	0	0	-	-	-	-
日高	6	0	0	6	3	0	0	3
胆振	2	0	0	2	2	0	0	2
空知	2	0	0	2	0	0	0	0
留萌	1	0	0	1	-	-	-	-
小計	1,014	123	78	1,215	1,222	104	7	1,333
飼育個体	36			36	37			37
合計	1,050	123	78	1,251	1,259	104	7	1,370

<過去2カ年実績>

(羽)

振興局	平成30年度第1回				平成30年度第2回				平成29年度第1回				平成29年度第2回			
	成鳥	幼鳥	不明	計	成鳥	幼鳥	不明	計	成鳥	幼鳥	不明	計	成鳥	幼鳥	不明	計
釧路	669	81	6	756	761	114	13	888	457	53	28	538	949	93	0	1,042
十勝	171	25	0	196	84	7	0	91	59	8	0	67	44	2	0	46
根室	46	5	0	51	8	2	0	10	8	1	0	9	8	1	0	9
オホーツク	2	0	0	2	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0
宗谷	4	1	0	5	-	-	-	-	0	0	0	0	-	-	-	-
日高	0	0	0	0	2	1	0	3	2	1	0	0	4	1	0	5
胆振	2	1	0	3	0	0	0	0	1	0	0	1	-	-	-	-
空知	3	0	0	3	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
小計	897	113	6	1,016	856	124	13	993	529	63	28	620	1,005	97	0	1,102
飼育個体	35	3	0	38	35	3	0	38	32	1	0	33	33	2	0	35
合計	932	116	6	1,054	891	127	13	1,031	561	64	28	653	1,038	99	0	1,137

※「-」は調査を実施しなかったもの。「0」は調査を実施したが確認できなかったもの。

※各年度の確認羽数の推移については別添グラフ参照。

6 調査当日の気象状況

○令和元年度第2回調査（令和2年1月24日 午後3時）

振興局	天候	気温	風向	風速	備考
釧路	快晴	0.2℃	西	16.0 m/s	釧路地方気象台
十勝	晴	-2.5℃	西北西	7.9 m/s	帯広測候所
根室	雪	-2.1℃	北北西	7.8 m/s	釧路地方気象台
オホーツク	曇	-3.7℃	北西	7.3 m/s	網走地方気象台
日高	晴	-3.0℃	北北西	4.9 m/s	室蘭地方気象台
胆振	晴	-3.0℃	北北西	7.4 m/s	室蘭地方気象台
空知	曇	-5.0℃	北西	7.2 m/s	札幌管区気象台

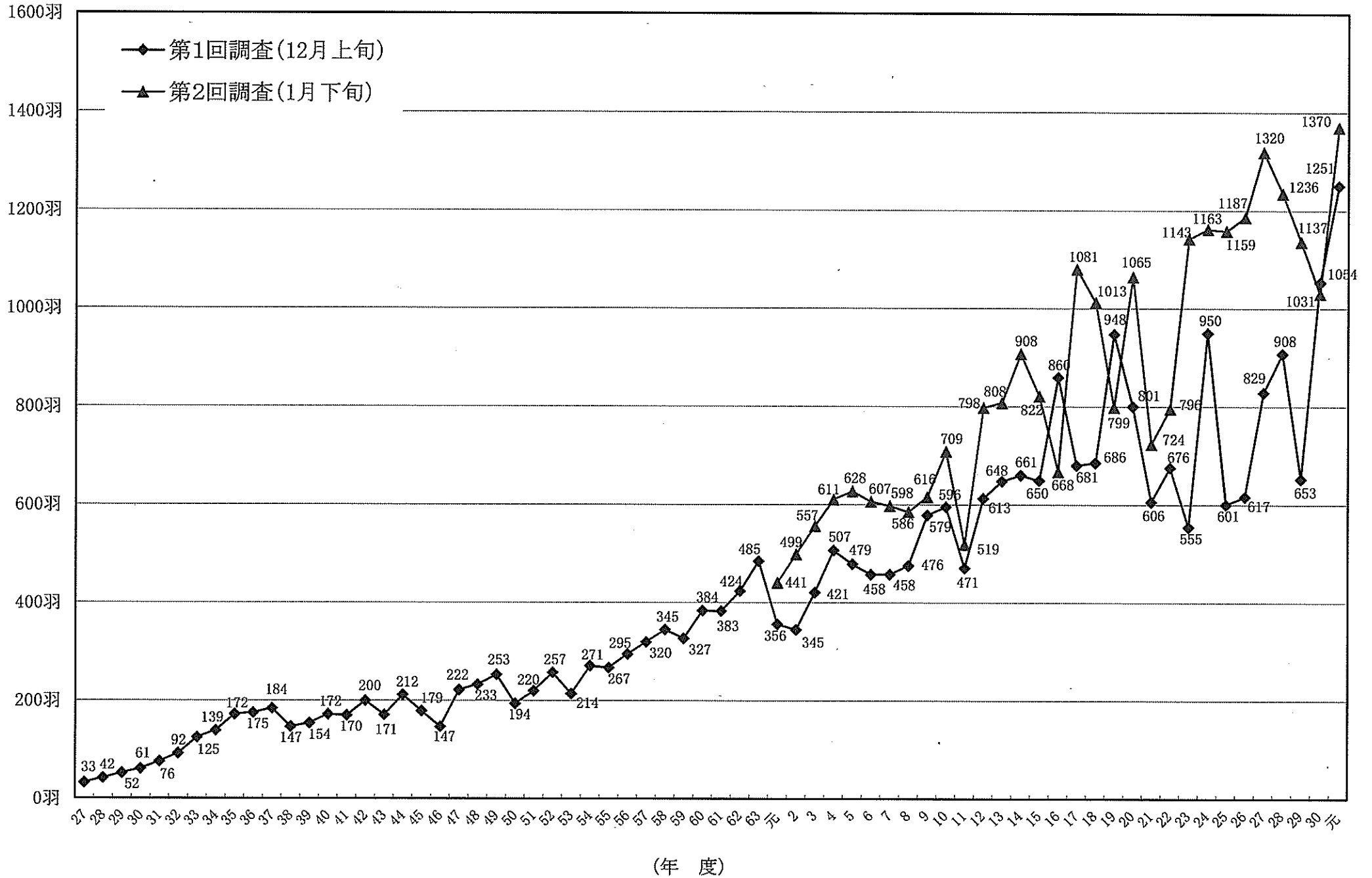
※<参考>平成30年度第2回調査（平成31年1月25日 午後3時）

振興局	天候	気温	風向	風速	備考
釧路	晴	-0.3℃	北	8.5 m/s	釧路地方気象台
十勝	快晴	0.0℃	西北西	6.4 m/s	帯広測候所
根室	晴	-1.4℃	北西	8.0 m/s	釧路地方気象台
オホーツク	雪	-3.8℃	北北西	5.8 m/s	網走地方気象台
日高	晴	-1.1℃	北西	3.8 m/s	室蘭地方気象台
胆振	曇	-1.1℃	北北西	5.5 m/s	室蘭地方気象台
空知	曇	-2.9℃	北	2.7 m/s	札幌管区気象台

※<参考>平成29年度第2回調査（平成30年1月25日 午後3時）

振興局	天候	気温	風向	風速	備考
釧路	曇	-2.8℃	北北西	2.9 m/s	釧路地方気象台
十勝	晴	-3.3℃	西	7.1 m/s	帯広測候所
根室	曇	-4.0℃	西	7.0 m/s	釧路地方気象台
オホーツク	曇	-4.9℃	北西	6.4 m/s	網走地方気象台
日高	晴	-4.6℃	北西	3.6 m/s	室蘭地方気象台
胆振	-	-	-	-	室蘭地方気象台
空知	雪	-5.8℃	西北西	5.2 m/s	札幌管区気象台

タンチョウ越冬分布調査（生息状況一斉調査）による各年度の確認羽数の推移（飼育個体含む。）

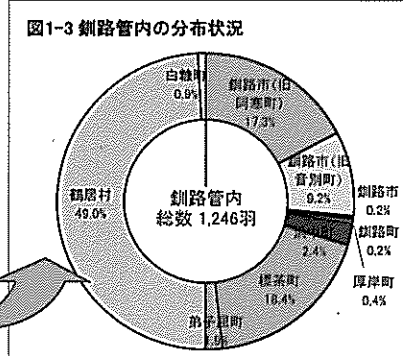
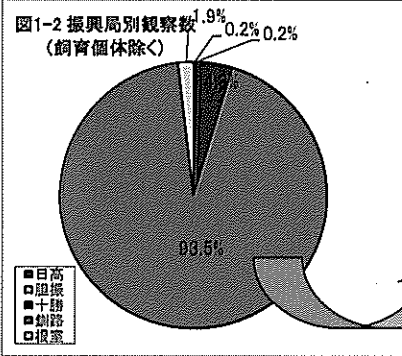
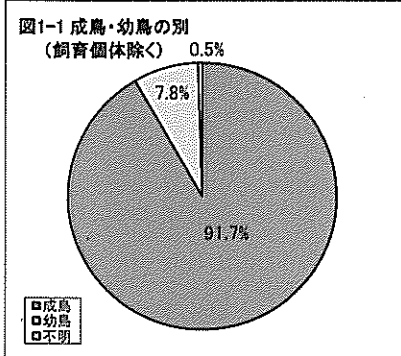


令和元年度第2回タンチョウ越冬分布調査結果(振興局別、観察場所別、給餌の有無等による分布状況)

1 振興局別分布(飼育個体を除く)

	成鳥	幼鳥	不明	合計
胆振	2	0	0	2
日高	3	0	0	3
十勝	50	7	0	57
釧路	1,144	95	7	1,246
根室	23	2	0	25
合計	1,222	104	7	1,333

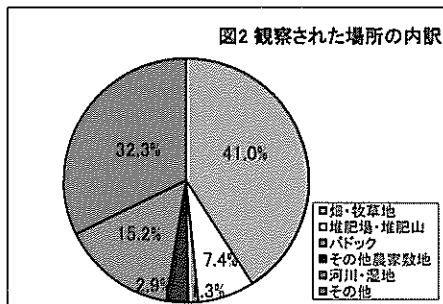
※飼育個体を除いた野生個体1,333羽について分析を行っています。



2 観察された場所の内訳

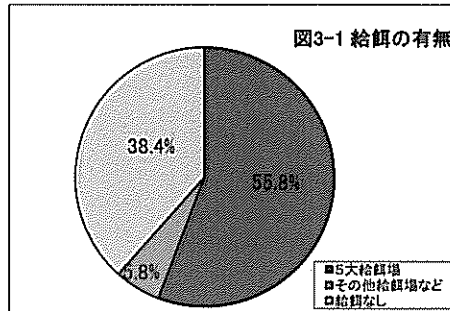
	①畑・牧草地	②堆肥場・堆肥山	③パドック	合計
胆振	2	0	0	2
日高	0	1	0	1
十勝	32	9	0	41
釧路	500	85	15	600
根室	12	4	2	18
合計	546	99	17	662

	④①-③以外農家	⑤河川・湿地	⑥その他	合計
胆振	0	0	0	0
日高	0	2	0	2
十勝	0	11	5	16
釧路	32	189	425	646
根室	7	0	0	7
合計	39	202	430	671



3-1 給餌の有無

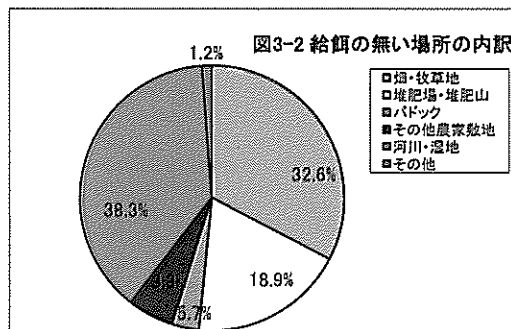
	給餌あり (給餌場など)	(うち5大 給餌場)	給餌なし	合計
胆振	0	-	2	2
日高	0	-	3	3
十勝	6	-	51	57
釧路	808	(744)	438	1,246
根室	7	-	18	25
合計	821	(744)	512	1,333



3-2 給餌のない場所の内訳

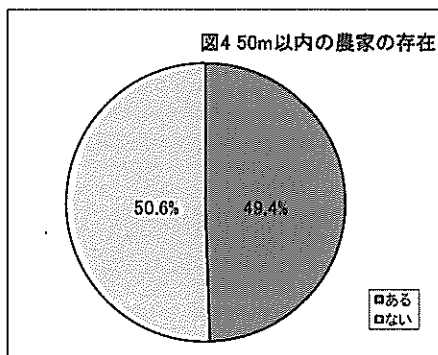
	①畑・牧草地	②堆肥場・堆肥山	③パドック	合計
胆振	2	0	0	2
日高	0	1	0	1
十勝	29	9	0	38
釧路	124	83	15	222
根室	12	4	2	18
合計	167	97	17	281

	④①-③以外農家敷地	⑤河川・湿地	⑥その他	合計
胆振	0	0	0	0
日高	0	2	0	2
十勝	0	11	2	13
釧路	29	183	4	216
根室	0	0	0	0
合計	29	196	6	231



4 50m以内の農家の存在

	ある	ない	合計
胆振	0	2	2
日高	0	3	3
十勝	39	18	57
釧路	607	639	1,246
根室	13	12	25
合計	659	674	1,333



2020年2月28日

2020年1月24日（令和元年度第2回）実施の

タンチョウ越冬分布調査結果について

正富宏之

はじめに

今年の定時調査時間は、昨年と同じ午後3時を中心とした前後15分間である。しかし、2015年からの環境省によるいわゆる三大給餌場（阿寒、下雪裡、中雪裡）における給餌量削減による影響で、給餌場等へのタンチョウの集散状況が変化した。これにより個体数の動向把握が定時調査だけでは難しくなったため、定時調査とは別に鶴居村における朝のねぐら観察と、三大給餌場へタンチョウが集まる給餌時刻に合わせたカウントが行われており、このコメントでも特に断らない限りその結果を用いた。またこれまでと同様に、このコメントでは飼育個体を除いて説明・解析を行っている。なお、各振興局の名称は以下すべて振興局を省略して示してある。

1. 記録羽数とその特徴

1-1. 総羽数

記録総数は1,333（うち成鳥1,222、幼鳥104、成・幼鳥不明7）羽で、亜成鳥も成鳥に含めてある。今年度第1回の調査（2019年12月5日、以下12月調査と称す）より118（成鳥+208、幼鳥-19、不明-71）羽多く、平成30年度同期（2019年1月25日第2回調査、1月調査と称す）の公式記録と比べても340（成鳥+366、幼鳥-20、不明-6）羽多い。ただし、給餌場へ多数が集まった時の記録を基にした前年の個体数（平成30年度1月調査参考記録）1,359羽と比べると、総数で26羽少なく、実質的に今年は過去2番目の羽数を記録したことになる。

*平成30年度公式記録数は、今年度と調査基準が異なることに注意されたい。

1-2. 増減の割合

今年度の12月の結果と比べると、総数は1.1倍とわずかに増え、このうち成鳥は1.21倍であるが、幼鳥は0.85倍とむしろ減っている。12月より1月調査の総数が少ないのは、2000年以降では2004（平成16）、2007（平成19）、2018（平成30）の3年度のみで、これらの年は成鳥も減少を示した。ただし、幼鳥は2018年度の1月に増加し、代わりに2010（平成22）、2004、2007の各年度は減っている。つまり、一般に1月は12月より越冬地への集合が進み、目撃数が多いのが普通である（換言すれば1月の目撃総数が少なければ幼鳥数も少ない）が、総数が多く記録されたにもかかわらず幼鳥数が少ないのは、2000年度以降では2010年度に続き今回が2回目である。これについては繁殖の項で触れておく。

1-3. 実態との差

前述のように 2018 年度の公式記録に比べると個体数は大幅に増加しているが、調査方法が今年と同じの参考記録と比べると、個体数はほぼ同じレベル（両年で 26 羽差）の 1,350 羽台にとどまっている。現在、北海道のタンチョウ羽数は 1,700 羽を超すと推測されているから、少なくとも 3-400 羽は見落とされたものと思われる。その原因と改善策については後に触れる。

1-4. 各給餌場の飛来数

五大給餌場で最も目撃数が多かったのは下雪裡給餌場（以降給餌場を省略）の 250 羽で、以下阿寒 173 羽、中雪裡 161 羽、音別 85 羽、中茶安別 75 羽の順である。しかし、定時（15 時）の調査では、同じ鶴居村の中雪裡で 132 羽が数えられたのに、下雪裡ではわずか 12 羽と、極端な違いを示した。

三大給餌場では給餌量削減が行われているので、出現個体数を削減開始前の 5（2010-2014）年間と開始後 5（2015-2019）年間で比べると、開始前は総数の平均 55.2%が記録されているのに、開始後は平均 39.6%に低下している。反面、大給餌場以外（＝小給餌場）の目撃数は、削減開始前は総数の平均 22.3%であったのに、開始後は平均 45.9%を占めている。このように大給餌場と小給餌場で、削減開始前と後のそれぞれの平均利用羽数をみると、大小いずれの給餌場でも明らかな違いがあり、これは三大給餌場の給餌量削減の影響と考えられる。ただし、大給餌場のうちの音別と中茶安別では、三大給餌場での給餌量削減前と後の各 5 年間で、総数に対する記録数割合は 20%前後であり変化はない。したがって、三大給餌場の給餌量削減の影響は、得られた資料を基にする限り今のところ明確には認められないが、恐らく近いうちに両給餌場への波及効果が明瞭に表れるものと想定される。

2. 分布状況

2-1. 分布管内数

例年分布の見られる十勝、釧路、根室のほかに、日高と胆振が加わり、計 5 管内での記録となった。このうち日高では 2012（平成 24）年度から少数が継続して越冬しているが、胆振では 2015（平成 27）年度から 12 月に目撃されるものの、1 月の調査時には記録されなかった。しかし、今年初めて 2 羽が確認され、タンチョウの越冬する管内が、昨年空知を含めて、特に道央圏で徐々に広がりつつあることを示す例とみることができよう。

2-2. 各管内への集中度

タンチョウがどの管内に多いかをみると、釧路管内が突出して全体の 93.5%を占め、次いで十勝 4.3%、根室 1.9%、日高 0.2%。胆振 0.1%の順である（図 1-2）。釧路管内の記録数は、これまでの最多の 2015

(平成 27) 年度記録を抜いて、今年が過去最多となった。また、釧路の集中度は最近 5 (2015-2019) 年間では 3 番目の値であり、三大給餌場で給餌量削減前の 5 (2010-2014) 年間の平均集中度が 96.8% なのに対し、削減開始後の 5 (2015-2019) 年間のそれは 93.9% とやや低い。しかし、有意な差は認められず、得られた資料を基にする限り、削減効果が釧路管外まで及んでいるとは今のところ言えない。ただ、根室管内の集中度は、直近の 5 (2015-2019) 年間で最大でも 1.1% であったが、今年は 2% に近い値を示している。しかし、これも主に調査手段の変更 (4 項参照) によるものと思われ、給餌量削減の直接的な効果とは見なしがたい。

2-3. 市町村別の羽数と分布

今回の調査でタンチョウが記録されたのは 3 市、14 町、1 村の計 18 市町村で、過去最多の市町村数である。前年と比べると新たに 2 市 (苫小牧市、根室市) 3 町 (池田町、釧路町、中標津町) で記録され、1 町 (長沼町) で目撃されなかったから、差し引き 2 市 2 町の増加である。特に、苫小牧市は今年初めての記録で、道央圏へのタンチョウ進出を示唆する例と言えよう。

これら自治体で最も羽数が多く目撃されたのは下雪裡と中雪裡の二大給餌場を持つ鶴居村の 611 羽、次いで音別と阿寒の給餌場を含む釧路市が 334 羽、中茶安別給餌場を含む標茶町が 229 羽で、この 3 市町村で総数の 88.1% を占め、次いで幕別町 36 羽、浜中町 30 羽、弟子屈町 24 羽などが続く。

上記市町村のうち、幕別町を除いて他は釧路管内にあり、鶴居村が管内の半数にあたる 49.0% を抱えている (図 1-3)。前年は 35% と低い値を示したが、最近 10 (2009-2018) 年間の鶴居村の平均羽数割合は 46.6% であり、実数では 2015 (平成 27) 年の 642 羽に次ぐ羽数が居たことになる。また、弟子屈町ではこれまで 1~5 羽ほどの目撃数に過ぎなかったが、今回一挙に増え、釧路川沿いに北へ向かって増える可能性を示し、他方、大樹町では前年の 66 羽から 9 羽へと激減した。

2-4. 利用環境

利用環境の記録は、個体の 1 日の活動のごく一部を集めたもので、環境の利用度を正確に表す資料ではない。しかも、その年の気候や調査当日の天候にも影響されるため、分布理由の説明も難しい。なお、給餌場を含む畑・牧草地で目撃される個体の割合が、2017 年度までの 70-80% といった高い割合から、昨年に引き続き 40% 前後まで少なくなっている。しかし、これは鶴居村の二つの給餌場の居場所の名目を「畑・牧草地」から「その他」へ変えたため、利用環境の変化を示すものではない。(図 2)。

他方、給餌の有無についての集計 (図 3-1) では、60% 強が給餌のある所に居たことを示しており、昨年までよりやや多いか、または同程度の割合となっている。しかし、今年の数値は三大給餌場の朝の給餌時間を基にした割合である。そこで、定時調査時の目撃数を拾うと、五大給餌場の記録数は 378 羽ほどとなり、その他の給餌場と合わせても 454 羽で、全体の 34.1% に過ぎない。

つまり、三大給餌場での給餌量削減の影響は、実際に給餌場を利用する個体の数に対してよりも、現

状では個体の行動様式を変えることに大きく働いていると考えるのが妥当であろう。なお、給餌のない場所での出現個体のうち、河川・湿地への出現割合は前年より高いが（図 3-2）、これには恐らく今年の気候的な要因が働いたと考えられ、これまでも年によりかなり大きな変動を示している。ただ、これからの地球温暖化を考慮すれば、将来を見越してそうした場所の保全も念頭に置いておく必要がある。

3. 繁殖状況

記録された幼鳥は 104 羽で、12 月調査時より 19 羽も少なく、前述（1-2 項）のように、12 月より 1 月の記録が少ない特異的な現象を示した。また、前年 1 月調査時と比べて 20 羽も少ないし、直近 5（2014-2018）年間の不明個体数を除いた総数に対する平均幼鳥割合 10.3%より、今年の幼鳥割合は 2.5 ポイントも低い。さらに、2000 年以降では最も低かった 2008 年の 8.0%をさらに 0.2 ポイント下回る値を示している（図 1-1）。

しかし、2019 年の 12 月初旬（調査）以降、今年の 1 月下旬（調査）までに幼鳥が特段数多く死んだ様子はない。また、給餌場等にできる大きな採餌集団より、広く散らばって越冬するタンチョウ群に、より多くの幼鳥が含まれる傾向も例年あることから、それら小集団の多くが見落とされた可能性がある。今年度の場合も、12 月は五大給餌場で目撃された羽数の約 4 倍の幼鳥が小給餌場で記録されており、1 月の調査でも小給餌場の幼鳥数は 5 大給餌場のそれを上回っている。これらを勘案すると、得られた数値を基にして、今年度繁殖が極端に悪かったとは今のところ断定できず、北海道のタンチョウの将来を見通すうえでも、より確実に生息個体を見つけることが求められる。

4. 評価と課題・提言

多くの方が、寒空の下で野外の現場に立って記録を取られ、集められた多量のデータは道の担当者が分類・整理して当該資料は作成された。それらの方々の努力により、1952（昭和 27）年に調査を始めて以来、実質 2 番目に当たる多くの羽数とその分布状況についての資料を得られたことに敬意を表したい。それを基にして、将来のタンチョウの保全と人との共存を考え、実施策を講じることが可能になる。

しかし、それ故にこそ、得られた資料が実態をなるべく正確に捉えたものでなくてはならない。不十分な資料は、むしろ誤った結論を導く道具となりうる。特に、現在三大給餌場で給餌量削減が行われ、そのことがタンチョウの行動にいかなる変化を与え、三大給餌場以外へどのような影響を与えているかは、タンチョウの将来像を見通すうえでも極めて重要な事象である。

残念ながら、それを把握するための十分な事実確認ができない。しかし、たとえば根室管内では、最近 10（2009-2018）年間で 1 月の目撃数（平均 11 羽）が前年 12 月のそれ（平均 41 羽）より多い年は見当たらないが、今年初めて 1 月の記録数が 12 月のそれを上回った。その大きな要因として、調査者が前年の 6 人から今年は 17 人へ増え、きめ細かな調査が行われたことが挙げられる。

十勝管内でも最近 5（2015-2019）年間では、昨年度 1 月の 91 羽（平均 58 羽）が最大数で、同時に

調査人数も2010（平成24）年以降で最も多い23人であった。しかし、今年は調査員数の年平均14人より1人多いだけで、記録羽数も57羽にとどまった。十勝管内には大きな給餌場がないため、広く分散するタンチョウ探索のためより多くの調査者が必要であり、他方タンチョウの集中する釧路などでは、1方向からの観察では構造物にさえぎられての確認不能といった事態回避のため、複数調査者の共同作業も欠かせない。

上記の根室の場合や、あるいは十勝や釧路にしても、調査時の気象を始めとする環境条件がタンチョウの生息状態に関わるとはいえ、目撃羽数の多い少ないを生む一つの要因として、調査参加人数の多さとそれらの方々の知識・情報量という、人間の側の事情が結果の精度を大きく左右するのも確かである。

では、調査参加者をどのようにして確保できるであろうか。結論として言えば、一つは野鳥や自然へ関心を持たれる方のボランティア参加を広く求めることである。それには地域ごとの統括者も必要となるであろうし、連絡網の構築も欠かせない。

二つ目としては、電話やメール等を用いた情報収集である。特に小さな群れが分散して農家や周辺環境等に依存して暮らしている地域では、そうした農家や地域の方々へ事前に依頼するなどして、電話やメールによる情報提供、さらには事実を示す写真映像を送ってもらうことで、確からしさの高い情報が集められると思われる。それにより、ボランティアの調査中の事故とか、調査の際の私有地への立ち入り困難や目撃不能による記録の欠落を防ぐことが可能になる。一つの手法として、こうしたより効率的なシステムの構築も今後早急に考慮すべきである。